

# みんなで地球の未来を考えよう「どっちがエコ？」

富士市立岡子浦幼稚園

～質の高い教育をみんなに・・・自分で考え選び取る力を～

SDGs デジタル絵本プロジェクト

紙のまちの幼稚園として今までの経験を生かし、紙をリサイクルするために紙ごみの回収に取り組んでいた。



12月、年長は、「日本平動物園のジュンとミンピーと一緒に地球の未来を考えよう」と、デジタル絵本を見た。



デジタル絵本を見た後、子どもたちは、「ジュンとミンピーが困っているから、「紙はこっち」と、自分たちで声を掛け合ってさらにゴミの分別を始めた。リサイクルという言葉も浸透してきた。



幼稚園中のごみを紙とプラに分別し、リサイクル業者に渡した。



生活の中で、地球にやさしいことを考えるようになった。

デジタル絵本のQRコード



保護者によるリサイクル講座を開催。SDGsに取り組んでいる地元企業の方も参加してくれた。



3学期、年中にこの仕事を引き継いでもらうため、説明をした。



## どっちがエコ？クイズ遊び 3学期

資源ごみのリサイクルを知り、「地球にやさしいこと」に興味を持ち始めた子どもたちに、2種類の行動パターンを演じて見せ、どちらが地球にやさしいか選ぶクイズで遊んだ。

- 買い物でエコバックを使う人と、レジ袋を購入する人を見せた。大半はエコバックの人を選んだが理由が言えない。その中でA児が、「エコバックは何回も使えるから。」と発言した。子どもたちは、「何回も使えることがエコだ。」ということを確認していた。
- 紙コップと紙ストローで飲む人と、プラスチックコップとプラスチックストローで飲む人を見せた。「洗えば何回も使えるからプラスチックの方がエコだね。」と自信たっぷりと言う。教師はエコなのは当然紙ストローだと思っていたので、子どもの捉え方を見て何でできているかではなく、捨てる時のことを考えてもらいたいと思った。B児は「紙は汚れてしまったらそのまま捨てるだけけど、プラスチックはプラごみとしてリサイクルできると意見を言った。確かにこれまでプラごみをリサイクルできるものとして集めてきた。B児の言うことも最もだと思い、「どっちも正解だね。」と受け止めた。
- 再生紙のトイレットペーパーについて考えた。「こっちはパルプ100%って言って、木を切って作ったもの。少し高いけど真っ白でフワフワ」「こっちは古紙を集めて作った再生紙100%」という情報を伝えた。C児「再生紙はちょっと薄いからたくさん巻いて使うけど、パルプはフワフワしているから少し巻けば拭けるからエコだ。」D児「安いから再生紙の方がエコだよ。」E児「木を使って作っていたら木がなくなっちゃうかもよ。」とジュンとミンピーの事を思い出していた。F児「2回ぐらい使えばもったいなくないよ。」皆「えっ、トイレットペーパーは流しちゃうから1回しか使えないよ。」とたくさんの意見が交わされた。



翌日、「昨日のエコクイズ楽しかった。」「またやってほしい!」という話題になると、G児「僕、ご飯を残さないで食べるエコ生活始めたよ。」と得意そうに答えた。

<考察>

子どもたちは、教師の言葉から得た情報と今までの経験から、一生懸命考え、自分なりの言葉で根拠をもって発言する姿に成長を感じた。また、子どもの意見から何をしたら「エコ」なのかということだけではなく、どうやって使うか、どう処分するかなど、多方面から「エコ」を考えていくことが大切であると感じた。そして、今回のエコクイズでは、子どもから問題提起された。何が正解なのかを明確にするのではなく、私たち教師も考えるきっかけ、学び直すきっかけをもらった活動になった。

